

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ES12B007	校内研究の理論とプログラム開発(Theory and Practice of In-service Training in Schools)					学校経営コース科目						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	1	大学院教育学研究科			氏名 山崎清男、大島崇、有定裕雅 E-mail oshima@oita-u.ac.jp 内線						
授業の概要	本授業においては、校内研究の理論とプログラム開発に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	校内研究に関する実践的知識について深い理解に基づき説明できる											
目標2	校内研究に関する学校現場の事例を題材として現状の課題を発見できる											
目標3	校内研究に関する学校現場の現状の課題に対し具体的な対応策を立案できる											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	校内研究と教職員の職能成長に関する現代的課題											
2	当事者が主体となる授業研究(1) 授業研究の目的を問う											
3	当事者が主体となる授業研究(2) 授業研究の主体は誰か											
4	当事者が主体となる授業研究(3) 教師は授業研究をどう経験するのか											
5	学校現場の事例や現任校の校内研究の課題分析											
6	授業研究と教師の学習(1) 教師の思考過程の分析											
7	授業研究と教師の学習(2) 協働的知識構築の場としての授業研究											
8	教師の専門性発達 リフレクションを促す手法											
9	教師の学習動機の構築 自己マスタリーとモチベーション											
10	教師の発達領域の構築 協働と拡張的学習											
11	学校の課題を核とする校内研究											
12	学習効果をもたらす校内研修のデザイン											
13	校内研究と教職員の職能成長の改善企画のプレゼンテーション											
14	校内研究と教職員の職能成長の改善企画についてのディスカッション											
15	教育活動を創造するための校内研究と教職員の職能成長											
ラ ア:知識の定着・確認 イ:意見の表現・交換 ニ C:応用志向 テ D:知識の活用・創造 ン イ グ	ミニッツペーパー、予習(文献の精読)、復習(学びの省察)、プレゼンテーション、ディスカッション、課題解決策の立案				工 夫 そ の 他 の							
時間外学修の内容と時間の目安	準備 教員の指示に従い、課題文献を精読すること。 学修 その他、教員の指示に従い、授業の準備を行うこと。 事後 演習において討議したことを整理し、個人の視点を明確にするとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して、到達点を整理すること。 学修 その他、教員の指示に従い、授業の復習を行うこと。											
教科書	特になし。授業中に指示する。											
参考書	・石井英真編著(2017)『アクティブ・ラーニングを超えていく「研究する」教師へ』日本標準 ・秋田喜代美・キャサリン・ルイス編(2008)『授業の研究 教師の学習』明石書店 ・鹿毛雅治・藤本和久編(2017)『授業研究を創る』教育出版											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取組む姿勢、討論への参加等)	70%										
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%										
注意事項	本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。											
備考												
リンク	URL											